

# AI部活動集大成発表

第2回やまがた甲子園

総合最優秀に酒田東高

部活動で人工知能（AI）について学ぶ「やまがたAI部」の県内高校生が活動成果を発表する「第2回やまがたAI甲子園」が26日、オンラインで開かれた。県内約60の企業、自治体、教育機関がAI部運営コンソーシアム（松本晋一会長）を組織し、高校生の先端技術習得をサポート。AI甲子園は本年度の活動の集大成で、総合の最優秀賞には酒田東高が輝いた。



高校生がAIに関する研究成果を競った第2回やまがたAI甲子園の様子（オンライン配信画面から）

コンソーシアムは県内のデジタル人材育成と経済活性化を目指す2020年8月、AI部の活動を始めた。全国に先駆けた取り組みで本年度は13校約100人が参加。県内ものづくり企業を訪問し、各社員によるサポートの下、会社でのAI活用方法を考えたほか、オンライン講義も受けて最新技術を学んだ。

今大会には12校約90人が出場。文字データ認識精度を競う「競技テーマ」、AIで課題解決を目指す研究の発表内容を競う「探究テーマ」の2種目があった。探究テーマは各校の研究成果発表を審査員6人が採点し、得点順に表彰。総合は両種目の得点に高校生投票の得点を加え順位を付けた。総合2位は新庄神室産

業。同3位は東桜学園だった。

酒田東チームは6人で、競技テーマは1位を獲得、探究テーマでは2位に入った。研究は昨年続き「天気予測AI」を取り上げ、酒田市の翌日の天気を予測するAIを作成した。気温や降水、風速など10年分の特別データを用いて1時間

ごとの天気を予測させることで実用度を高め、データ取得の一部自動化により省力化を実現。正解率は82%となり、実用性と精度を両立したと発表した。

講評で、審査員を務めた山形経済同友会副代表幹事の榊原憲二（ミクロン）社長は「経験は何年か後に何万倍になり自分に返る。卒業後に県外に出てもいつか山形に戻り、次世代を育ててほしい」と述べ

た。松本会長は「『デジタル』を武器に夢やロマン、思いを実現する人になってほしい」と高校生に呼び掛けた。

AI甲子園は昨年続き2回目。山形市のパレスグランデールを配信拠点で、高校生は各校からビデオ会議アプリ「Zoom」を使ってオンラインで参加。動画投稿サイト「ユーチューブ」でライブ配信した。（菅原武史）